



善正寺だより

〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

お念仏をいただき

喜んでこの生終わらせて頂きます



戦後八十年の夏は、史上最も暑い夏となりましたが、皆さん無事にお過ごしでしょうか？昨年最も暑い夏だ、と記した記憶がありますから、年々猛暑が進行している訳です。

これは地球の温暖化(沸騰化)と国連の事務総長はいうがもうブレイクの利かないような段階に至っているのかもしれないですね。地球の異常気象は、大洪水被害も起こして、欧米やアジア諸国でも大きな被害をもたらしました。まさに我々は今、命の危機に直面しているのだと思わずにいられません。

だが、「暑い、暑い」と愚痴をこぼしているうちに、「先祖様から受け継いだわが命を無為に終わってしまうのだとすれば、誠に空しいことと言わねばなりません。」

親鸞さまは、「本願力にあひめれば空しく過ぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」(高僧和讃)と詠まれました。お葬儀のときに、読誦されるご和讃で、心の底に染みわたるような御文ですね。

阿弥陀如来(法蔵菩薩)の本願に遇い奉る(知った、信じた)ならば、それまでのように、人生を空しく過ぐる人はいない。宝の海のような名号(南無阿弥陀仏)の功德がその人の身に満ち満ちて、煩惱によつて濁った水が、そのまま清浄の海となるように、煩惱具足の凡夫も、そのまま浄土に往生できるのです、という意味です。

ガンの治療空しく47歳で往生された鈴木章子さん(北海道のお寺の坊主さん)は、「仏さまのお言葉がわかる今の生いただきまして ありがとうございます。ございました 仏法をお聞かせいただき 身にかけていただきまして ありがとうございます。ございました お念仏をいただき ことができました。ありがとうございます。喜んで この生 終わらせていただきます」という詩を残して往生浄土の人生を全うされました。

命の危機にあえぐ我々も、後生の一大事を心に掛けて、老病死の苦悩を超える人生を全うしたいものです。

☆行事ご案内☆

◇秋季永代経法要

9月20(土)・21(日) 両日共午後1時半

講師:木膏(きうり) 慈教先生(長野・初出講)



お経開き(ご遺族招待者)20日午前10時半

夕方5時の鐘撞き年中無休、誰でも撞けます

一縁会テレホン法話 ☎059・354・1454へ ☎

報恩講 11月2日午後1時半、3日午前10時

講師:九條孝義先生(滋賀)



※お非時弁当は持ち帰りか、寺で会食OK、要予約

善正寺ホームページとブログ『住職と坊守のつれづれ

日記』共に各QRコードより訪問可！左の善正寺だより欄

クリックしてファイルを開くと過去の寺報閲覧可、ブログ好評

累計訪問者数48万2千人、一日平均90人以上訪問

新納骨堂後継者の無い方、墓でお困りの方ご相談下さい

法事場でお困りの方、本堂使用可、寺にご相談下さい

新共同墓境内に記名プレート付で「俱会一処」共同墓新設

懐かしの写真アラカルト

☆



善正寺
ホームページ



みんな若かった



住職と坊守の
つれづれ日記



坊守スケッチ

漢字を使う『命の授業』

お笑い芸人のゴルゴ松本さんは、少年院で15年間漢字を使った「命の授業」を続けています。様々な漢字を使って、人生の意味や生き方を伝えていきます。例えば「命」という漢字は、「人屋根」に「一叩き」と書きます。心臓の一叩きの連続が「命」です。命には「命令」、「使命」、「生懸命」等の熟語があります。人は誰かの命令でこの世に命を授かり、使命感を持って一生懸命生きています。また「始」という漢字は女偏に台と書きます。少年院で「皆はお母さんから生まれた。お母さんが土台。だからお母さんを大事にしない」と言っていると、母親から「出所後息子が急に優しくなった」とお礼を言われたそうです。

ゴルゴさんの命の授業のきっかけは、2011年の東日本大震災。少年院出所者の就労支援をしている人からの依頼でした。実はお笑い芸人として売れない時代から、後輩芸人に「ゴルゴ塾」を開いて、日本語の魅力や日本の歴史の面白さを教えていました。それが後に「命の授業」と繋がりました。

ところで現代人はスマホのLINEで、誰しも簡単なメールのやり取りだけで済まし、日本語の持つ豊かさや奥深い



意味に気付く人は少ないと思います。若者達の会話では「やばい」「まじで」「きもい」の三つの言葉だけで会話が成り立つ傾向があります。LINEメールにしても、言葉ではなくてアニメ風の絵文字で済ます人が多くなりました。こんな世間の風潮に、漢字の意味を知ろうと言うのは逆行しているかもしれません。しかしこんな時代だからこそ、漢字の持つ多様な意味を理解することは、会話の中に相手を思いやる優しさが培われるのではないのでしょうか？

先ず私は手始めに、自分の名前に付けられた漢字の意味を十分味わって、名付けた『親の願い』を慮ることから始めたいと思います。

お悔み申し上げます

- ★山本美子様(87)7月27日亡
- ★藤井美代子様(94)7月29日三重
- ★服部マリ子様(76)8月7日亡

カンパ有難う

澤田美智江様、富田和代様、赤井淑子様、IS様、TS様、KF様、TT様他、お志や切手を頂戴しました。



若坊守のいよいよ日記No.28

七月初旬、ゆかた茶会にスタッフとして初めて参加させて頂きました。遠州流・中川宗津先生よりお誘い頂き、長男(中二)は伴頭(はんとう・亭主)の補助をする仕事、私はお運びのお子さん方のお世話係をしました。

この撫子会・ゆかた茶会は二年に一度開かれ、二十年目の節目の年でした。一昨年、お客として参加した時は、お茶室の凜とした雰囲気や浴衣姿のおもてなしに涼を感じることができました。今年は裏方に回って、大変多くの人の手がかかっていたことに驚きました。

玄関でのご案内に始まり、お菓子やお茶の準備、子供達の手引きなど数え切れないほどの仕事を多くの人で回していきます。一席三十分を十二席、途方もなくゴールが遠く、また暑さの中で体力勝負の日でした。

それでもてきぱきと動かれる皆さんのお姿に、ただただ感謝です。

長男はお茶席の流れを見ながら、台本を読み、初めての方にもわかりやすい説明を心掛けていました。ご指導頂いた皆様に感謝したいと思います。

素晴らしい一日となり、少しでもお手伝いできたことを有難く思います。



俳壇 & 柳壇

昨日は選挙今日は蝉時雨 釋妙水

感嘆のどよめく綱の黒き汗 橋の上熱風もゆく伊勢湾へ

朝蟬や木立揺るがす大合唱 釋桑邦

青空に「平和」と書くや原爆忌 咳くしやみ老いの夏風邪持て余し

秋空や白く輝く姫路城 釋住安

無花果や先客ありてつつきを流し 流れ星願い事一つ島の宿

新米の粒一粒を噛みしめる 釋妙梅

逝く母へ嫁ぐ娘歌う「秋桜」 彼岸花表舞台へ押し出され

縄文の生活の跡へ日傘さし 釋妙鈴

我が背を洗う孫の手夏の旅 幼子に螢かご編み笑む伯父は

涼風や石燈籠に群ぐ子ら 釋秀龍

跳び箱の皮の匂いや夏の午後 雷鳴のやめば折り鶴完成す

白鷺の城下悠々風薫る 釋清風

かぶと虫得意顔して見せに来る 蜻蛉飛ぶはや立秋の夕べかな

ポチ戻り礼の電話を20件 寝つかれぬ息子の彼女泊まった夜

★編集子より★ (い藤をか志)

「善正寺だより」381号をお届けします。◇昨年以上に長い猛暑が続く、命の危険を感じながら過ごす夏でした。◇日本人の減少が昨年90万人超で、地域の担い手が減少し、地域社会の存続も困難な時代。生きるのが大変な時代になりつつあることを実感します。共々生かされる命大切に。合掌。

今年もお金が巡ってきました。娑婆は猛暑日の連続と、先祖様の驚かれることでしょう。お金の起源は、お釈迦様の弟子で神通力第一と言われた目連尊者が亡き母親が餓鬼道に落ちて逆さ吊りにされて苦しむのを助ける為にお釈迦様に救いを求めました。お釈迦様は「お金に僧侶を集め飲食を供えて供養するように」と教えられました。これが孟蘭盆会^{ウラナベツエ}の始まりです。善正寺も十年前からお金に本堂でお勤めをします。是非あなたもご先祖様のご苦勞を偲びつつ感謝の気持ちでお参り下さい。先日新聞に悲しい事件が報道されました。「84歳の認知症の母親を、90歳の父親が食事から排泄まで全ての介護を任されて、体力気力の限界まで頑張りました。二人には三人の息子がいて夫々に祈りを持ち離れて住んでいた。なので介護の協力は頼みませんでした。しかし父親一人が面倒を見るには限界がありました。ある日老妻が高熱を出してパニックになり、妻の首に手を伸ばしました。父親は三人の息子に頼んだことはなく、三人の息子達も積極的に関わるべきだったと後悔しています。超高齢化社会を迎えた現在、こういう問題で苦しんでいるご家庭は多いと思います。決して一人で解決しようと思つたのではなく、自分は一人ではないと、感じることが、悩み解決の道を開きます。ところで永代経法座に、9月20日、21日午後、初めて長野県より水賣慈教先生をお迎えします。先生は終活問題のフロンテショナル、あなたのお悩みにヒントを与えて下さいます。ぜひご参詣下さい。合掌。

令和七年九月

善正寺坊守 拝